

(様式1)

令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立立花吾嬬の森小学校
校長名	向井 一郎

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・2・4・5・6学年については、社会科を除く教科で、平均正答率が目標値を超え、全国の平均値を上回っている。・第2学年は、全教科において、正答率が全国平均以上になっており、特に主体的に学習に取り組む態度の数値が高い。・観点項目が異なるため、前年度との単純な比較はできないが、第3学年も目標値を平均して3ポイント下回るところを維持し、学年全体での向上の後が見られる。	<ul style="list-style-type: none">・第3学年は、目標値を全項目で下回っているが、特に国語における「主体的に学習に取り組む態度」と算数における「思考・判断・表現」についての格差が目立っている。(平均10ポイントのマイナス)・5・6学年における社会科の「思考・判断・表現」の項目の格差が目立つ。(平均4ポイントマイナス)・理科における「知識・技能」項目が、4から6年において目標値を下回る傾向にある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・家庭における生活習慣が整い、学習習慣がついている。実際に日々の家庭学習の提出率もほぼ100%である。家庭の学習への関心も高い。・高学年になるほど、学習意欲が高まっている。意欲的に学校生活に臨んでいる。・「立吾しぐさ」を守ろうという意識が強く、全校を通して規範意識が平均値を超えている。	<ul style="list-style-type: none">・学級の中での関わり合いの鍵を握っている「友達のささえ」が低学年はまだ確立していない。・「成功体験と自信」については、学級での差があり、自信をもって自分の考えを表現するためにも、この項目が全ての学級で平均値以上になることを目指す必要がある。・学習意欲のもとになる「発信力」も学級の差がある。これを高めることが大事である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全学級においてほぼ全員の児童が、家庭学習に取り組むことができている。・ふりかえりシートや復習問題に意欲的に取り組む姿が、どの学年でも多く見られるようになっている。(タブレットを利用することで、個別対応が容易になった。)・各学級での読書量が増えている。読書への意欲が高まっている。・課題を見つけ、それを解き明かしていく学習への意欲が見られる。	<ul style="list-style-type: none">・提出はされていても、取組の仕方に差がある。更に家庭との連携が必要である。・ミライシードなどを使う場合、児童にとって最も必要な問題が選べていない場合もあるので、きめ細かな個別対応が必要である。・学校図書館の利用が増え、読書数も増えているが、選択した書物が児童の年齢に適していない場合もある。個別の読書計画が必要である。・図書を通してはもちろん、ネット上の情報の適切な選択・活用の指導が更に不可欠である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎・基本の定着

- 授業においては、「めあて」をはっきりさせて1時間の中で学んでいくことを明確にする。そのために各教員の授業観察を定期的に行う。
- 授業の中で、つかむ場面、調べて考える場面、友達と交流をする場面、そして、考えを深める場面を用意し、単調で教師主導型の授業にならないようにする。
- タブレット端末内のアプリを活用し、児童相互の交流や、教師とのやりとりを通して、考えを発表したり、深めたりすることができるようにする。
- タブレット端末を活用し、家庭との連携を図り、学校で学んだことが家庭でも振り返ることができるようにする。単なる宿題ではなく、翌日の授業の中で生かすことのできる家庭学習になることを目指す。
- ミライシード、東京ベーシック・ドリルを効果的に活用し、学習を進めるときに、土台となる前学習を振り返ることができるようにする。(タブレット端末の効果的な活用)
- 単元学習の前後に、ふりかえりシートを用い、児童の理解度を確認する場面を設ける。テストを行った場合にも、間違い直しを確実にを行い、状況をつかみ学習計画を再構築する。

(2) 「読むこと・書くこと・話すこと」の力を高め、言語への関心を高める。

- 「読書活動」の充実を図り、学校図書館の整備、蔵書の充実を進める。特に、調べ学習に適した書物を重点的に増やす。「図書館を使った調べ学習」にも取り組むように支援をする。
- 「朝学習」の時間に、「読み取り学習」に重点をおいたドリルを選び取り組んでいく。
- 教師が綿密な指導計画をたて、その中でノートなどに自分の言葉で書く場面を用意し、児童が読み返して一人で復習することのできるようにする。
- 発達段階に応じて、三行日記、スピーチ原稿、聞き取りカード、日記などを書く場面を多く設けるようにし、書くことへの抵抗感を減らしていく。
- 「話す活動」を授業場面、学級活動場面、さらに学校生活日常場面で増やしていく。
- 3年生からは、国語以外でも、わからない言葉に関心を向けるようにし、児童の「語彙」が増えるようにし国語辞典を積極的に活用していくようにする。

(3) 主体的・対話的で深い学びの実現

- 「立吾しぐさ」の徹底、特に「聞き目・聞き耳」を重点とし、相手を意識して話したり、相手の話の内容を理解しながら聞いたりすることを大事にしていく。分からない時には聞き返すことの大切さも伝えていく。
- 「主体的な学び」を全ての教科で実現するために、校内研究・研修を充実させ、教師の指導力を高める。また、児童の生活習慣がより安定するように家庭との連携を強化する

3 「令和4年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・D・E層に属する児童の割合は、各学年で各教科共に3割ほどいる。個別指導などを強化し、C、B層に上がるようにし、数値的には、算数において2割に下げる。
- ・理科では実験・観察を増やし、社会科では問題解決的な学習場面を増やし、思考力を高める。